

効果的な渋滞対策の検討

テーマ 交通計画

キーワード 渋滞対策、交通円滑化、TDM、モビリティマネジメント、シミュレーション

円滑な移動の実現に向けて

円滑な移動を実現するためには、道路ネットワークの構築に加えて、モビリティの向上や情報化の推進など、ハードとソフトを組み合わせた対策を総合的に実施することが必要です。

実測のデータに基づき、優先的に対策すべき箇所を明示する方式を導入し、渋滞損失時間の高い区間を把握することで、最も効果的な渋滞対策を検討します。

検討内容

(1) 都市圏交通円滑化総合計画の策定

都市圏の交通円滑化を図るとともに、環境問題等交通に起因する様々な課題を解決するために、交通容量拡大策に加え、交通需要マネジメント（TDM）及びマルチモーダル施策を組み合わせる総合的な対策を推進する計画を策定します。

(2) 交通需要マネジメント（TDM）施策の計画・実施

道路利用者の時間の変更、経路の変更、手段の変更、自動車の効率的利用、発生源の調整等のTDM施策について、現状分析、施策提案、効果分析等を実施します。

(3) マルチモーダル施策の計画

道路だけでなく鉄道、航空、海運等複数の交通機関の連携による総合的な交通施策としてのマルチモーダル施策について、現状分析、施策提案、効果分析等を実施します。

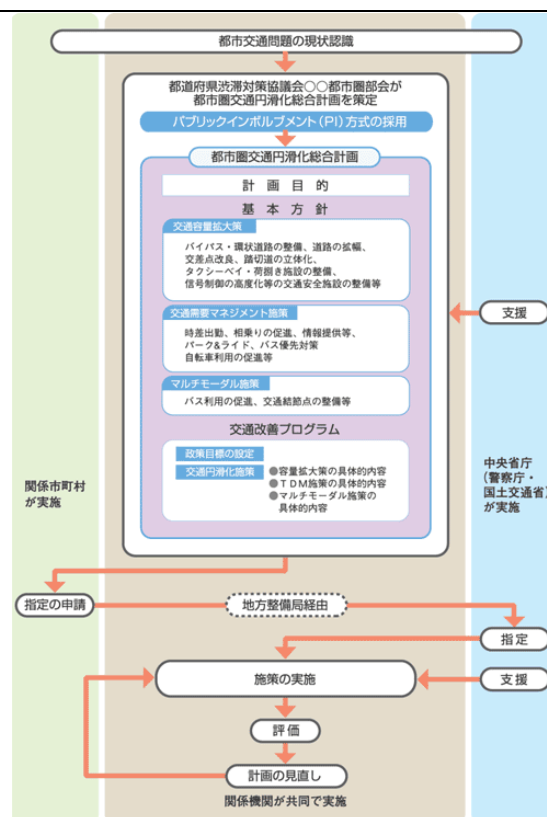


図-1 都市圏交通円滑化総合計画策定の流れ
(出典：国土交通省 HP「都市圏交通円滑化総合計画の概要」の
「2. 都市圏交通円滑化総合対策のフロー」)

日本工営株式会社

お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

実施フロー

地域特性や交通特性の把握を行ったうえで、交通円滑化施策を検討します。必要により社会実験計画の作成支援により、継続的な取組みを支援します。

1. 地域特性の把握

- (1) 都市圏の概況把握
- (2) 詳細な地域特性把握
- (3) ヒアリング調査

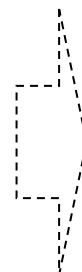
2. 交通特性の把握

- (1) 詳細な交通特性の把握
- (2) 渋滞発生状況把握
- (3) 交通量推計



3. 交通円滑化施策の事業計画案策定

- (1) 対策立案: ハード施策、ソフト施策の検討
- (2) 関係機関との協議資料作成: 道路管理者、警察等
- (3) 対策実施による効果検証計画の立案
- (4) 社会実験計画の作成



モニタリング

技術ポイント

(1) 渋滞損失時間等の算定・表現

交通量調査や交通量推計の結果をもとに、渋滞損失時間、渋滞損失額等を算定し、3D マップ等にわかりやすく表現します。

(2) 渋滞予測・渋滞対策評価

ミクロ交通流シミュレーションモデルを構築することにより、渋滞状況を再現します。そのモデルを用いて、各種渋滞対策の効果を渋滞長、所要時間等の指標で評価します。

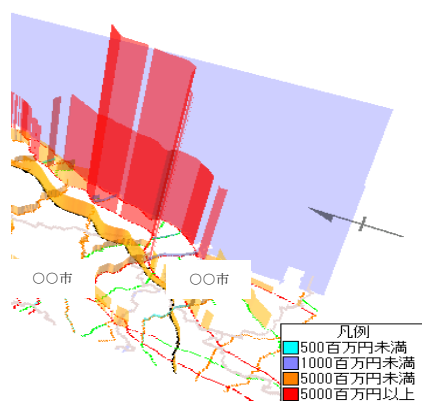


図-2 渋滞損失 3D マップ例

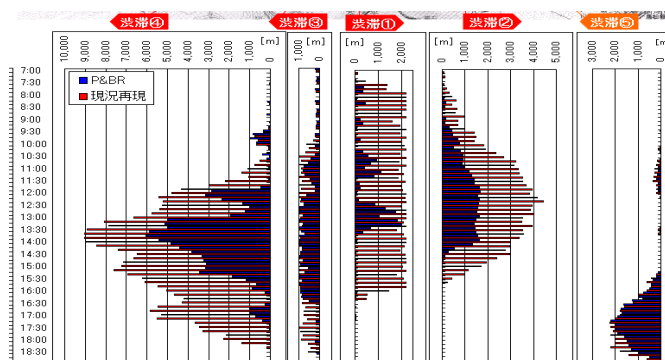


図-3 渋滞予測例

関連実績

当社は、全国において国土交通省や地方自治体等の渋滞対策、交通円滑化対策の実績があります。

対象事業内容：経年的な渋滞状況のモニタリング、観光渋滞対策、イベント時の渋滞対策 等